

論文審査の結果の要旨

氏名 武 正憲

本論文は全 7 章からなっている。第 1 章では、エコツーリズムで利用する自然観光資源の保全に関しては、モニタリング情報の不足が問題であることを導き出した上で、その解決方法として、エコツアーガイド従事者（以下、「ET ガイド」と記す）による保全管理者の補助が考えられることを示した。そして、それを実現するために、ET ガイドの自然観光資源に対する保全意識と保全行動を明らかにし、ET ガイドがモニタリングに必要とされる自然観光資源に関する知識や頻度・時期・範囲といった観察機会を明らかにし、それによって ET ガイドが自然観光資源の保全を行う可能性を検討する意義を示した。第 2 章では、文献調査と我が国の保全管理者の補助制度の見直しにより、自然観光資源を保全する上で ET ガイドに求められる役割を提示した。第 3 章では、第 2 章で提示した我が国の ET ガイドに求められる役割が、実際担うことが可能な役割であるかを確認するため、既往文献の ET ガイドに関する記述内容を、計量書誌学的手法で分析した。第 4 章では、ET ガイドの自然観光資源に対する保全意識と保全行動を、ガイド業経験のある者が比較的多い野外活動愛好者の保全意識と保全行動から推測した。野外活動愛好者はカヌー愛好者とマウンテンバイク愛好者とし、ガイド経験者と非ガイド経験者に分けて分析した。第 5 章では、ET ガイドによる資源の保全が最も期待される地域特性をもつ長崎県佐世保市南九十九島地域で詳細な事例調査を実施した。まず、文献調査とヒアリング調査により、調査地における資源に係る歴史を整理した上で、第 2 章で示した自然観光資源を保全する上で ET ガイドが実際に行っているのかを把握した。次に、調査地で活動する ET ガイドの知識と観察機会を、生物種数、上陸する島数、上陸頻度という観点から、専門家の調査活動と照らし合わせて分析した。第 6 章、第 7 章では、第 2 章から第 5 章までの結果を整理し、総合考察と研究のまとめを行っている。その内容は以下のようになる。

本論文では、我が国の自然観光資源の保全管理者としては自然保護官が該当すること、彼らの人員不足解消を目的として現地管理の補助員制度が整備されていること、補助員制度には、自然公園指導員制度、パークボランティア制度、グリーンワーカー制度という 3 つの制度があり、その中で資源の保全のための補助業務が定められていることを示

した。ここで示した補助業務と文献調査の結果、我が国の ET ガイドには、自然観光資源の保全のために求められる役割として、「長期的視点での環境教育」、「現地での保全行動の動機づけ」、「観光者の監視」、「資源モニタリング」、「保全管理者への情報提供」、「美化清掃」、「施設整備」という 7 つがあることを示した。また、エコツーリズムと観光に関係が深い既往文献を計量書誌学的手法で分析をした結果、上記の 7 つの役割が、即ち我が国の ET ガイドに求められる役割であることを示した。

さらに、カヌーとマウンテンバイクの愛好家に対する調査から、ガイド経験者は利用する自然環境に対する保全意識も保全行動も非ガイド経験者よりも高く、これらの人材が ET ガイドとなることで、資源モニタリング、美化清掃、施設整備を担う可能性を示した。九十九島地域における事例調査では、ET ガイドによる直接的な保全活動は確認されなかったが、漂着ゴミの美化清掃をエコツアーとして実施しており、持ち帰れないゴミを発見した場合には管理者へ情報を提供していることが確認された。また、ET ガイドは、一部専門家が確認していない保全対象生物種を観察し、エコツアーの中で特定の島を頻繁に訪れており、ET ガイドが資源モニタリングの補助が担える可能性が示された。ただし、観光者にとって危険生物種の観察は頻繁に行われているものの、希少生物種であっても観光対象として認識されていない生物種は観察されないことも明らかとなった。

これらの結果より、我が国の ET ガイドが自然観光資源の保全する上で求められる 7 つの役割のうち、長期的な視点での環境教育と施設補修は行われていないものがあるが、既往研究や社会的背景から行われていく可能性があると考えられる。また事例研究から、ET ガイドは、観光資源として魅力がない生物種は認識していないという課題も明らかとなった。ET ガイドを自然観光資源の保全に、さらに役立てるためには、生物種に関する知識の補完や研修プログラムの開発、ET ガイド間の情報共有が必要であると考えられる。

以上のように申請者は、エコツアーガイド従事者の自然観光資源の保全に対する役割を、定性的な分析だけではなく、定量的な分析を用いた文献調査と長崎県佐世保市九十九島地区において実施した詳細な事例調査により明らかにした。非常に時間のかかるこれらの手法を用いて明らかにした内容は、我が国において推進されようとしているエコツーリズム問題の明らかにしつつ、その解決に必要な材料を提供することにつながった。以上のことは自然観光資源の保全に関する先駆的成果として十分評価できる。従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める。

以上 2,086 字